

主 題：私たちに与えられる試練

聖書箇所：ヤコブの手紙 1章2-4節

年に一度のことですが、だいたいこの時期に私はメッセージに当たります。ここに立って、初めに自分自身のことや自分の家族のことについて話をするのですが、今日も少しさせてください。最近、娘がようやく1歳になりました。ある方には「もう1歳？早いね。」と言われますが、私たち親にとってはいろいろなことがあった一年間でした。二度の入院があり発育の遅れがあったりと、いろいろな面で不安に感じるがありました。子どもを持つ親である皆さんは、私たち以上に、これまでいろいろなまた大変な経験を通して来られたと思います。結婚する前はそれなりの不安や困難がありました。結婚したら、その生活の中でもいろいろな不安や困難があります。また、子どもが生まれるとそこにもいろいろな困難、不安があります。このように言うと、湊崎家は不安と困難だらけだと思われるかも知れませんが、とんでもありません、それ以上にすばらしい祝福を私たち家族はもらっています。ただ分かっていたきたいことは、私を含めここにおられる皆さんは、この人生の中で「どうしてですか？なぜですか？」と思えるようなことを経験されて来たということです。自分の周りではなぜこんなに辛いことが起こるのか、困難だと思えるようなことがなぜ起こるのか、引いては、なぜ、神さまはこのようなことを起こされるのだろうと思うことを皆さん経験されて来られたのではないかと思います。

私たちの信仰生活の中ではなぜ？どうして？と思うことがたくさん起こります。このことを私たちは「試練」と言います。それは決して罪ゆえに起こる主からの懲らしめではなく、主の前に従順に歩もうとしている中で、日々の信仰生活の中で与えられる苦しみ、困難のことです。私たちは私たちの周りに起こる様々な苦しみ困難に対して、それを「取り除いてください」と祈ることが多々あります。私自身もそうでしたし、今でもそのように思うときがあります。その試練は私たちにとって決して喜ばしいものではありません。むしろ、出来ることなら会いたくないものです。私たちは試練にぶつかるとき、悲しみ落ち込んで「もういやだ！」と叫ぶことが何度もあります。早くその苦しみ困難から解放されたいと願います。けれども、この試練は当然、私たちだけのもものではありません。信仰の先輩たちも信仰生活の中であらゆる試練に会っていました。では、彼らはどのようにその試練と向き合ったのでしょうか？また、その試練をどのように見ていたのでしょうか？私自身、また私の家族はこのことについて一年間いろいろと教えられました。今も失敗を繰り返しながら学び続けています。

ですから、今日は「ヤコブの手紙」からこの試練について、特に、試練の目的と試練の中でどのように信仰が成長して行くのかということについて学んで行こうと思います。それを通して、私たちが確かに試練は自分にとって必要なものであると知り、試練の中にあっても落ち込むことなく喜びを保ち続けて行くことが出来るようになることを願っています。そのことを願いつつ、今日、皆さんと一っしょに「ヤコブの手紙1章2-4節」を学んで行きましょう。みことばを読みます。

「1:2私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

1:3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。

1:4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」

このみことばを見て行く前に、ヤコブがどうしてこの手紙を書いたのかについて考える必要があります。ヤコブはこの手紙の読者たちが経験しているいろいろな問題を理解していました。ですから、この手紙の内容を見て行くとき、手紙の読者たちがすでに社会的に虐げられ苦しい状況の中にいたことを示唆する箇所が出て来ます。読者たちが様々な困難な状況下にいることをヤコブは理解していたのです。例えば、ヤコブの手紙2章6節には、読者たちが金持ちから虐げられ、裁判所に引いて行かれるという記事があります。「それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。」、また、その次の2:7には「あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。」と、金持ちが読者たちの信仰を軽蔑するという状況もあったようです。また、5章1-6節を見ると、読者たちが金持ちから圧力をかけられ利用されている姿を見ることが出来ます。「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲慘を思って泣き叫びなさい。:2 あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、:3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。:4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声

は、万軍の主の耳に届いています。:5 あなたがたは、地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。:6 あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。」

このような状況の中にある読者たちは、その困難の中で世と同調するようになり、金持ちにへつらい貧しい者を虐げるといふ正しくない方向へと流れようとしていました。そのような状況下にある読者たちを十分によく理解したヤコブは、そのような彼らを責め励まし主の前に正しくあるようにと勧めるのです。1章2節を見ると、ヤコブが読者たちを励まそうとしている姿を見ることが出来ます。ヤコブは彼らに対して「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」と書いています。「さまざまな試練に会うときは、」と書かれていますが、ヤコブは「もし、試練に会うなら、」と仮定法で書いていません。「試練に会うときは、」、つまり、試練はすべてのクリスチャンに起こると言っているのです。試練に「会う」というのは「襲われる」という意味があります。これは強盗に取り囲まれる、強盗が自分の周りを取り囲んでいる様子を表わすことばです。つまり、手紙の読者たちはこのような状況に取り囲まれていたのです。これからもその状況になると教えているのです。確かに、試練は私たちの周りを取り囲んでいます。試練はいつ私たちに起こるか分かりません。思いもかけないときに起こるものです。そのことは皆さん、自分自身の生活を振り返る時によく分かることです。

いろいろな試練が思いもかけず次々にやって来ます。思いもかけずにやって来る試練に対して、ヤコブは「それをこの上もない喜びと思いなさい。」と言うのです。ヤコブは、迫害の中に困難の中にいる人たちに対して、その試練を「喜びと思いなさい」と命じているのです。これは命令です。ここで使われている「この上もない」ということばは「すべて」という意味です。「すべて、喜び、思いなさい」という順でことばが並んでいます。つまり、「ただ、喜びとだけ思いなさい」と訳すことが出来ます。しかもギリシヤ語では、このことばが最初に来ています。「ただ喜びだけと思いなさい。私の兄弟たち。」という順番です。つまり、「喜び」が強調されているのです。この「喜び」は100%の喜びです。「この状況の中で80%だけ喜びますが後の20%は喜べません。」というのではなく、100%の喜びだと言っているのです。私たちは困難の中で苦しみの中で「ただ喜びと思いなさい。」ということばを聞くと、正直、「そんなことは無理だ！」と思うかも知れません。けれども、私たちはこの「試練の目的」を考えるなら確かに喜ぶことが出来るのです。しかも、ここでヤコブは「思いなさい。」と命令しています。このことばは「考えなさい、見なしなさい」という意味です。つまり、「喜びと考えなさい。喜びと見なしなさい」ということです。つまり、感情的な喜びではなく意志に訴えかけているのです。

ですから、私たちは試練の目的をしっかりと考える時に、私たちの周りで起こる様々な試練を喜ぶことが出来るようになるのです。ですから、皆さんといっしょに「試練の目的」を考えて行きたいと思えます。

☆私たちに与えられる試練

1. 試練の目的 2節

何のために試練があるのか？まず、「試練」ということばがどのように使われているのかを見る必要があります。このことばには二つの訳があります。一つはそのまま「試練」という訳ですが、もう一つは「誘惑」という訳があります。ヤコブ1:13-14にこのように記されています。「**だれでも誘惑に会ったとき、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。:14 人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。**」、ここには「誘惑される」という動詞が使われていますが、これは1:2で使われている「試練」と同じことばです。神は私たちに試練を与えられますが、決して、私たちを誘惑なさる方ではありません。その試練を誘惑に変えてしまうのは私たちです。ですから、14節で「**人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。**」と言うのです。

もう一つの訳の「試練」、このことばは「外から来る苦しみ、外的な苦しみ、困難」としてよく使われています。けれども、ここでは敢えて「苦しみ、困難」ということばを使わずに、「試練」ということばを用いています。このことばには「試みる、試す」という意味があります。これは神は私たちにとって有益な、そして、目的のある苦しみを与えられるという意味で使われているのです。ちょうど、創世記の22章には神がアブラハムに試練を与えている記事があります。それはアブラハムが年老いてから与えられた大事な一人息子を神にささげなければならぬという試練でした。アブラハムにとってその試練は神に向かって「なぜですか？どうしてですか？」と言ってしまうような試練だったでしょう。アブラハムはその試練を誘惑に変えることも出来ました。けれども、アブラハムは信仰によってその試練をパスした訳です。この試練は私たちがより成長して行くために、私たちの内側にある弱いところを私たちが知って、そして、その弱さをクリアすることが出来るようにと、神から与えられるのです。その弱さを

私たちがクリアすることによって、私たちの信仰はさらに成長して行きます。この試練は、確かに、神の赦しのもとに私たちに与えられているものであり、また、周りに起こっているものです。

このように私たちの会う試練には必ずその目的があるのです。ヤコブは確かに私たちに試練があると言っていますが、この試練にはいろいろな種類があります。ですから、ここでヤコブは単に「**試練に会うときは**」とは言わないで、「**さまざまな**」ということばを加えています。「**さまざまな試練に会うときは、**」と言っています。確かに、私たちが日々経験する試練にはいろいろな種類があります。ヤコブは当時、すでにもう起こっているクリスチャンに対する迫害を頭に入れて言っていると思うのですが、「迫害」と言っても様々な種類があります。それぞれの環境も状況も違うのですから、問題はよく似ているものがあつたとしても全く同じではありません。もちろん、その試練は迫害だけでなく、人によっては肉体的な病かも知れません。ある人は生活的なまた経済的な困難かも知れません。ある人には人間関係における困難、精神的な弱さ、孤独、社会的な圧力、身近な人からの攻撃など、上げれば本当にきりが無いと思います。恐らく、ここにおられるお一人ひとりにはそれぞれ違った試練が与えられていると思います。なぜ、こんなにたくさんの試練があるのでしょうか？それは神が私たち一人ひとりの弱さをよくご存じて、それぞれにあつた試練を与えてくださるからです。私たちがその弱さをクリアして信仰が成長して行くことが出来るようにと、神が試練を与えてくださっているのです。

試練には私たちの信仰が成長するという目的があるのです。私たちが本当に私たちに愛して下さっているから神が与えてくださっている試練のその目的を覚えることは、環境や状況について、また、周りの人たちに対しても「もう少しこうだったらこのように変わったのに…」と不平不満を漏らすことは間違いであるということに、皆さん気付かれることでしょうか。もし、私たちが自分の環境や状況、人間関係において様々な不平不満を言っているなら、ヤコブが教えている本当の喜びをいつまでも理解することは出来ません。現在、ここには大変な状況、環境にいる方がおられるかも知れません。また、大変な人間関係にあるかも知れません。でも、もしその状況、環境が、また、その様な人間関係が変わつたなら、そのことが無くなつたら私は喜ぶことが出来ると思うなら、それは大きな間違いです。先ほども話したように、神は私たちに愛して私たちのために敢えて試練を与えてくださっているのです。この環境、状況は神が与えてくださっているのです。また、人間関係においても、私たちの周りに様々な人をおいてくださっているのです。そのことを私たちはしっかりと覚えなければいけません。私たちは問題が無くなることによって感謝できるのではなく、その問題の中にあつても主に感謝することができるのです。神に感謝することが出来るのです。また、その問題そのもの、試練そのものを感謝することができるようになります。私たちがこのように試練を喜ぶことができるようになるためには、また、問題の中で落ち込み続けないためには、この「**試練の目的**」というものをしっかりと覚える必要があると、ヤコブはそのように教えるのです。

私たちは単に試練の目的だけを知ればよいというわけではありません。試練の中にあつてどのように信仰が成長して行くのかを知る必要があります。そのことを知るによって、確かに、私たちに試練が必要だということを知ることが出来ます。

2. 試練の中における信仰の成長 3-4 節

試練の中にあつてどのように信仰が成長して行くのでしょうか？3 節には「**信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。**」とあります。ここには試練の中で信仰がどのように成長して行くのかという、その様子が記されています。私たちの信仰が成長して行く過程には何が起こるのでしょう？

1) 信仰が試される 3 節

先に見たことと重複しますが、3 節に「**信仰がためされる**」ということばが使われています。このことばは新約聖書のいろいろな箇所使われています。ローマ人への手紙やペテロ第一の手紙の中で使われています。I ペテロ 1 : 6-7 を見てください。「**そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまな試練の中で、悲しまなければならぬのですが、:7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称赞と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。**」と、ここで使われている「**信仰の試練**」の「**試練**」ということばは3 節で使われている「**ためされる**」ということばと同じことばですが、2 節で使われている「**試練**」とは別なことばです。このように2 節と3 節では「**試練**」、「**ためされる**」と別のことばが使われているのですが、3 節の「**ためされる**」ということばは、「**試験の方法、試験の手段**」を表わすことばとして使われます。このことばは「**試験をして本物と認める**」という意味があります。このことばは旧約聖書のギリシャ語訳である70 人訳では、詩篇 12 : 6、箴言 27 : 21 に同じことばが使われています。詩篇 12 : 6「**主のみことばは混じりけのないことば。土の炉で七回もためされて、純化された銀。**」、箴言 27 : 21「**るつばは銀のため、炉は**

金のためにあるように、他人の称賛によって人はためされる。」。この二つの箇所を見ると、金や銀が火によって精錬されて行く過程について書かれています。つまり、ヤコブが1：3で言いたかったことは、ペテロがIペテロ1：7で言っていることと非常に似ているのです。「**信仰がためされる**」というのは、ちょうど金や銀が火にかけられることによってその中にある不純物が取り除かれてその純度が増して行くように、私たちが試練に会うときは、私たちのうちにある不純物、つまり、罪や不信仰が取り除かれて行き、神に対する私たちの信頼がますます強められて行くと言うのです。

本来、私たちは常に主に信頼して生きて行かなければいけません。それなのに私たちは試練や苦しみがなければ、主に信頼することを忘れてしまいがちです。けれども、私たちは痛みや試練に会うときに初めて、その時に主を見上げて主に信頼することをします。神は私たちが神ご自身を信頼して歩んで行くことが出来るように、その障害となる不純物を取り除くために、私たちに試練を与えられるのです。ですから、私たちは最初に「**信仰がためされる**」のです。試練の中で信仰がどのように成長して行くのかという、その最初に見たことは「**信仰がためされる**」ということです。

2) 忍耐が生じる 3節

3節に「**信仰がためされると忍耐が生じる**」とあります。この「**忍耐**」ということばを少し考えて見ましょう。日本語の辞書を見ると「辛さ、苦しさ、悲しさ、怒りなどをじっと我慢する、こらえる」という意味があります。また、ギリシャ語にも日本語の「**忍耐**」に当てはまることばは二つあります。今見ていることばと、もう一つは「**気が長い、辛抱強い、寛大**」という意味があります。このことばはクリスチャンが人々に対して取るべき態度として用いられることばです。ただ、この3節で使われている「**忍耐**」は別のことばが使われています。ここで使われていることばは、クリスチャンが外からの困難、痛みに対して対応するべきものとして使われることばです。このことばは「**下に**」ということばと「**留まる**」ということばの合成語です。この二つのことばから成っています。つまり、「**留まる力**」という意味を表わすために「**忍耐**」ということばに訳しているのです。

このことばはどこで使われているのでしょうか？ルカの福音書8章15節とIIテサロニケ1章4節です。ルカ8：15、この箇所は皆さんよくご存じの「**種まき**」のたとえが書かれています。「**しかし、良い地に落ちるとは、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それをしっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。**」、ここにある「**よく耐えて**」ということばが3節の「**忍耐**」と同じことばです。また、IIテサロニケ1：4「**それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。**」、この「**耐えながら**」が同じことばです。これらの箇所からも分かるように、この「**忍耐**」ということばは、単に困難や痛みなどにじっと堪えるという消極的なものではないということです。日本語の辞書では、その痛み辛さ、怒り悲しみにじっと堪える、我慢するという意味がありましたが、ヤコブの手紙1：3で使われている「**忍耐**」は決して「**痛みをじっと我慢する**」という意味ではないのです。このことばはテサロニケの教会の人たちがそうであったように、**痛みの中にあっても正しいことを為し続ける、「すべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っている」と**と言われる通り、積極的かつ能動的なものなのです。

私たちはときとして「**忍耐しましょう！忍耐しました！**」ということばを使って、**苦しいことをじっと我慢する**というイメージを持って非常に消極的になってしまいがちです。けれども、ここで教えている「**忍耐**」は決してそのようなものではありません。私たちは痛みの中でも困難の中でも正しいことを選択し実践し続けなければならないということを、ここから教えられます。私たちは様々な試練を経験します。その中でどのように主に信頼して正しいことを為し続けるのかということが問われています。すなわち、私たちは様々な痛みに会うときに、神の前に正しいことを為して行く、つまり、みことばに従って行くことが必要なのです。私たちが痛みや患難に会うとき、世の中の様々な価値観に惑わされるのではなく、自分の考えに従って生きるのではなく、みことばに従って生きて行く、そのことを問われているのです。私たちが試練に対して喜びをもって対応して行くなら、私たちの信仰は強固なものになって行きます。そのことはパウロもペテロも教えてくれています。

先ほど見たIペテロ1：6-7も、また、ローマ5：3-4にも「**そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、：4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。**」とあります。「**信仰の試練**」は私たちの信仰を確かに強固なものにしてくれます。ですから、私たちは「**信仰がためされると忍耐が生じる**」、その忍耐から私たちの信仰が成長して行くということをここから見る事ができるのです。そして、ヤコブはこのことをすでに経験している手紙の読者たちに対して、もう一度そのことを思い起こさせようとするように話しているのです。

もう一度3節を見ると、「**信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。**」とあり、「**あなたがたは知っている**」という「**知る**」ということばは、単に知識として頭で知っているのではな

く、経験を通してこのことを知っているという意味があります。先に見たように、手紙の読者たちは様々な困難、苦しみを経験していました。その中で忍耐が生じるということを経験したのは確かに知っていたのです。けれども、ここでヤコブが彼らに対してもう一度このことを語るということは、私たちにも経験があることだからです。様々な試練は確かに神から来るものだと知っています。皆さんもよく知っておられることと思います。そして、この苦しみを通して神が私たちに何を教えようとされているのかと、いろいろなことを教えられ学びます。けれども、その試練を終えた後次の試練が来ると、私たちは前のことを忘れてしまうことがあります。試練の目的を忘れてしまい、その試練の中でまた「なぜですか？ どうしてですか？」と言って、不平不満を漏らしてしまうのです。私たちはこのことを何度も何度も思い起こさなければいけません。

私たちは様々な試練に会うときに忍耐が生じ、そして、私たちは確かに困難の中にあっても苦しみの中にあっても、忍耐をもって神の前に正しいことを選択し続ける責任があるのです。試練の中で私たちの信仰がどのように成長して行くのか？まず、「**信仰がためされ**」、そして、「**信仰がためされると忍耐が生じる**」とヤコブは教えてくれるのです。

3) 忍耐によって信仰がより成熟する 4節

私たちは成熟した者へと変えられると教えています。4節には「**その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。**」とあります。私たちはその試練から逃げ出すことなく、忍耐をもって正しいことを選択し続ける責任があることを学びました。信仰がためされると忍耐を学びます。その忍耐を働かせることによって、どうやって行くのでしょうか？ヤコブは「**そうすれば、**」ということばで、私たちがその信仰の試練を通してどのようになって行くべきか、その目標を教えているのです。「**そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。**」と言います。確かに、私たちは今現在、不完全な者です。けれども、未来において私たちは完全な者となることを教えています。未来において、主にお会いするとき、間違いなく非難されるところのない者として、完全な者として、主の前に立つことが出来るのです。

けれども、ヤコブはこの箇所ですべて「**完全な者となります。**」と現在形の動詞を使っています。つまり、私たちが試練の中で忍耐を働かせるときに、私たちは私たちの信仰において「おとな」となって行く、成熟した者へと成長して行くということを教えているのです。そして、「**何一つ欠けたところのない**」というのは「非難されるところがない」という意味があります。「**成長を遂げた**」、これは十分に成長した成熟したおとなのことです。「**完全な者**」とは「欠点のない、完全」という意味があるのですが、これは罪がないことを示しているのではありません。私たちが信仰のおとなとなるために、成熟した者となるためにカギとなるものは、この「**忍耐を完全に働かせなさい**」ということです。これは「忍耐に完全な働きをしよう」という意味があります。私たちは試練に会ったときに私たちの内側に生じた忍耐に完全な働きをしよう必要があるのです。私たちは、私たちの内側に生じたこの忍耐に完全な働きをしようするために、妨げを設けてはいけません。

忍耐に完全な働きをさせないとはどういうことでしょうか？私たちが試練にぶつかるときに、その試練から逃げ出してしまったり、また、その試練の中であって正しい選択をしない、そのことによって私たちの内側にある忍耐を完全に働かせることが出来なくなるのです。その働きを妨げてしまうのです。例えば、愛しにくい人が私たちの近くにいたとしましょう。私たちの内側に忍耐を完全に働かせないときに、私たちはその愛しにくい人から離れて過ごしたり、また、愛しにくいその人には愛を行なわなくても構わないという選択をしてしまいます。私たちはときとして「こういうことがあったから仕方ない」とか、「あの人がこんなことをするから仕方ない…」と言って、環境や状況、また人のせいにして、正しい選択をしなくても構わないという言い訳をしてしまうことがあります。

私たちは試練の中であって神に信頼し続けることを学んで行きます。それには忍耐が必要なのです。その忍耐を私たちの内側に完全に働かせることによって、私たちの信仰はより成長して行くのです。成熟したクリスチャンへと私たちは変わって行くのです。私たちはそのように言い訳をすることを止めるべきです。様々な環境、状況、また、人間関係の中において、正しい選択をしなくても構わないという言い訳を作るべきではないのです。私たちがその様に信仰を成長させて行くときに、神は確かにその試練の中において最善を為してください。大変な状況の中にあっても、例え、周りの人から理解されずに苦しむ状況にあったとしても、忍耐をもってのみことばを實踐して行くときに、ますますみことばに対する確信と神に対するその信頼が増し加わって行きます。そうすることによって、私たちの信仰はますます成長して行くのです。ですから、神は私たちの信仰の成長のために必要な試練を与えてくださるのです。私たちの弱さを知っておられる神は、私たちを愛しているゆえに、私たち一人ひとりに必要な、そして、相応しい試練を与えてくださっています。

今現在も、この中にはいろいろな試練に会われている方がおられると思います。もし、その方がその試練に立ち向かって行くのではなく、逃げ出そうとしておられるなら、神からのせつかくのレッスンを無駄にしています。せつかくの成長の機会を逃しているのです。私たちはこの様に試練の中であって間違いなく信仰が成長して行くということを見ることが出来ます。その中であって、皆さんが忍耐をもって正しいことを選択して行かれますように。確かに、感情的にはその苦しみ困難を喜べないかも知れませんが、最初に見た通りに、ヤコブはこのことを皆さんの意志に訴えかけているのです。手紙の読者たちの意志に訴えかけているのです。「喜びと思いなさい。喜びと考えなさい。」と。

私自身、学生時代はスポーツをしていました。スポーツの練習、トレーニングは苦しく嫌なものでした。けれども、その苦しい練習をクリアすることによって、出来なかったプレイが出来るようになるのです。もっとレベルが高い選手になることが出来るのです。それを思っ私はその苦しい練習を喜んでやっていました。スポーツの場合は、私たちにそれが達成できるかどうかは分かりません。けれども、聖書が教えていることは、この試練を私たちがクリアして行くなら、確かに成長して行くということです。この確かな成長の機会を皆さんは無駄にせずに、その中であって、神の前に正しいことは何かを考えながら、そのことを選択して行く必要があります。

私たちは今回、「試練の目的」と「試練の中でどのように信仰が成長して行くのか」ということについて学びました。この学びを通して、私を含め皆さんが確かに試練は自分にとって必要なものであるということ今一度思い起こしていただければと思います。そして、私たちは様々な試練の中にあっても、落ち込み続けるのではなく、喜びを保ち続けて行くことができるようになる、私たちがこのみことばを実践するときに、その様に歩むことが出来ると確信しています。もちろん、私自身もときとして落ち込んだり不安に感じたりすることがあります。皆さんもあると思います。そのときはぜひこのみことばを思い起こしてくださって、その中であって神は私に何を教えようとしておられるのかということ、しっかりと学び取る機会となることを願います。また、落ち込んだときにこのみことばによって私たちはお互いに励まし合い助け合って、正しい選択を為して行くことが出来るようになることを願っています。